西条市学校施設長寿命化計画　令和７年３月改定（概要版）

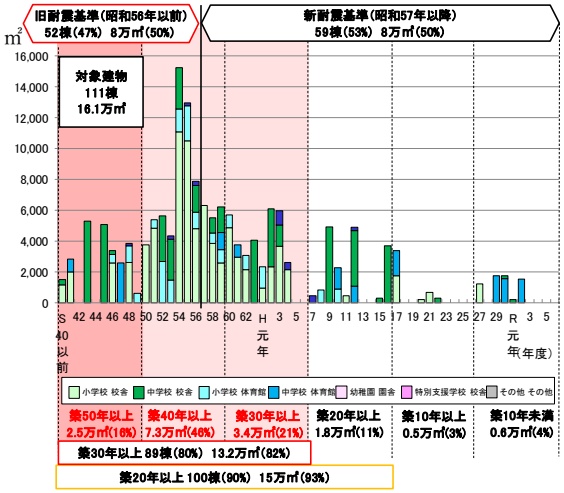
背景

学校施設は第２次ベビーブーム世代の増加に伴い昭和 40 年代後半から 50 年代にかけて多く建設されたが、それらの建物が、一斉に更新時期を迎えつつあり、その老朽化対策が重要な課題となっています。

限られた財源や人員の中で、学校施設の整備内容や時期、費用等を具体的に表す長寿命化計画を策定することは、持続的に施設整備を進める観点でも非常に重要であり、また、施設を計画的に管理することで児童生徒等の安全・安心の確保につながります。

目的

- 中長期的な維持管理等に係るトータルコストを縮減します。
- 予算の平準化に努めます。
- 学校施設に求められる機能・性能を確保します。
- 施設保有量の適正化を図ります。



計画期間

2020 年度（令和２年度）から 41 年間を計画期間とします。

原則５ 年ごとに見直しを行います。

対象施設

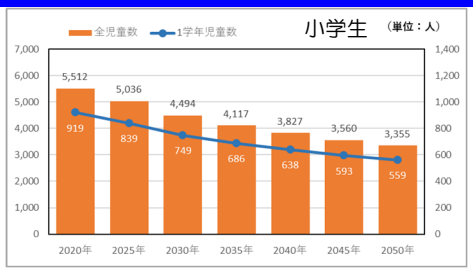
本計画における長寿命化の対象施設は、小・中学校施設 35 校の敷地内にある延床面積 200 ㎡以上の建物（倉庫や部室、給食室を除く）112 棟（総延床面積：160,688 ㎡）としています。（解体済１棟含む）

このうち、長寿命化改修等の検討が必要となる築 30 年以上の建物は 89 棟（132,176 ㎡）で、延床面積は本計画の対象としている学校施設の約 82%にあたります。

また、令和 16 年度末には、100 棟（149,985 ㎡）が築 30 年以上となり、約 93%の施設が長寿命化改修等の検討が必要となります。

児童生徒数の推移

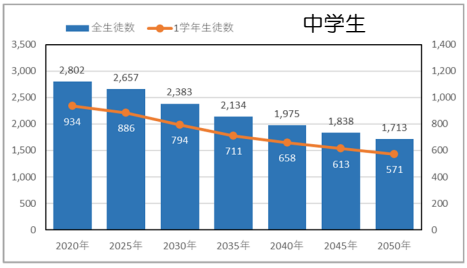
本市の小学校及び中学校の児童生徒数は、いずれも過去 30 年間で減少しており、全体では　平成７年度の 12,534 人から令和６年度の 7,758 人と約４割の減少となっています。



児童生徒数の将来推計

小学校の児童数は、年々減少する見込みとなっており、2015 年（平成 27 年）から 2050 年（令和 32 年）までの 35 年間で 2,445 人（42%）の減少となっています。

中学校の生徒数についても減少傾向となっており、35 年間で 1,227 人（42%）の減少となっています。



学校施設の維持管理費

本市の学校施設に係る過去５年間の経費は、年平均で約 11.9 億円となっており、施設整備費がその６割以上を占めています。

単位：千円

項目＼年度	2019 (R1)	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	5年平均	前回5年平均
光熱水費・委託	291,827	277,774	301,273	340,530	284,753	299,231	219,433
維持修繕費	48,199	78,499	53,066	59,381	75,640	62,957	76,208
その他施設整備費	17,163	18,164	17,823	17,486	18,000	17,727	20,424
施設整備費	582,386	239,131	1,062,190	1,225,533	946,774	811,203	577,108
合計	939,575	613,568	1,434,352	1,642,930	1,325,167	1,191,118	893,172

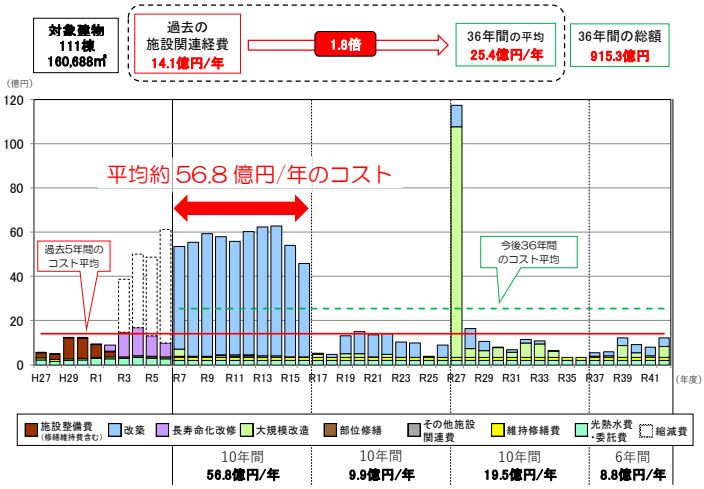
今後の維持・更新コスト（従来型）

建築後約 20 年で大規模改造を実施、建築後約 40 年で改築するという従来型の更新サイクルを続ける場合、今後 40 年間に総額 915.3 億円、単年あたり 25.4 億円必要になると試算されています。

これは、過去５年間における学校施設に係る１年あたりの平均費用 14.1 億円の約 1.8 倍に相当します。

今後 10 年間でのコストを見ると、毎年約 50 億円を超えるコストが必要となり、2030 年（令和 12 年）には、単年で 60 億円を超えるコストが必要となる見通しとなっています。

基準年度：2020 年（令和２年）			
試算期間：基準年の翌年度から 40 年間			
改築	改築周期：40 年	大規模改造	実施年数：20 年周期
	工事期間：２年		工事期間：１年
	改築単価：415,000 円/㎡	長寿命化改修	実施年数：40 年周期（80 年使用）
	実施年数より古い建物の改修を 10 年以内に実施		工事期間：２年



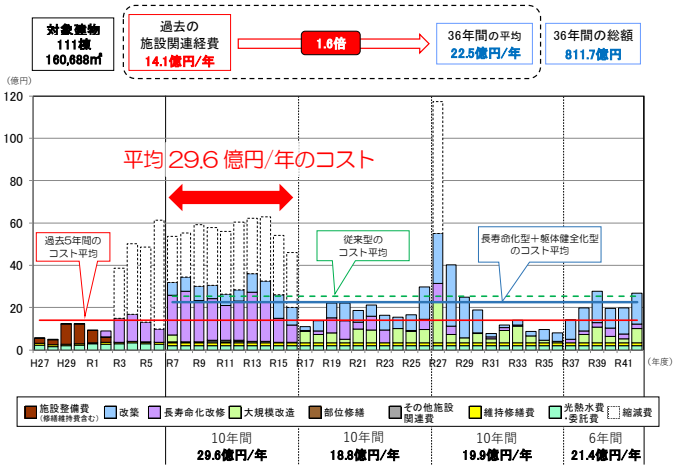
今後の維持・更新コスト（長寿命化型+躯体健全化型）の試算結果

長寿命化の実施計画第１期（令和元年度～令和５年度）は、長寿命化改修を実施することにより、従来型に比べ、令和３年度～令和５年度で約 9.3 億円削減できました。

引き続き長寿命化改修を続け、更に躯体健全化改修により外壁改修等を実施することで、構造躯体の評価に基づく整備方針を踏まえた、今後 36 年間の維持・更新コストは総額 811.7 億円、単年度あたり 22.5 億円必要になると試算されています。

これは、過去５年間における学校施設に係る１年あたりの平均費用である 14.1 億円の約 1.6 倍に相当します。

また、今後 10 年間でのコストを見ると、毎年約 29.6 億円のコストが必要となっています。



長寿命化の方針

従来の改築を中心とする老朽化対策では、今後、一斉に高まってくる施設の改築需要により、それらにかかる費用が、本市の財政を圧迫することが想定されます。

このような事態に対応するため、改修等の基本的な方針として『既存施設の長寿命化』という考え方を取り入れ、定期的な点検の結果等に基づく効率的な補修サイクルの構築や予防保全的な改修の実施等により、施設の長寿命化を推進することで、施設あたりのライフサイクルコストを縮減し、財政負担の軽減と平準化を図ります。

１．構造躯体の健全性評価の実施

整備の際は、構造躯体の健全性について調査を実施し、構造躯体の健全性について、評価を行ったうえで、評価結果に基づく適切な整備を行っていきます。

２．環境に配慮した改修の実施

構造躯体の評価の結果、長寿命化が可能と判断された建物については、改築に比べ、解体等に伴う廃棄物や二酸化炭素の排出量が少ない長寿命化改修への転換を図ります。

３．中長期的な維持管理等に係るトータルコストの縮減

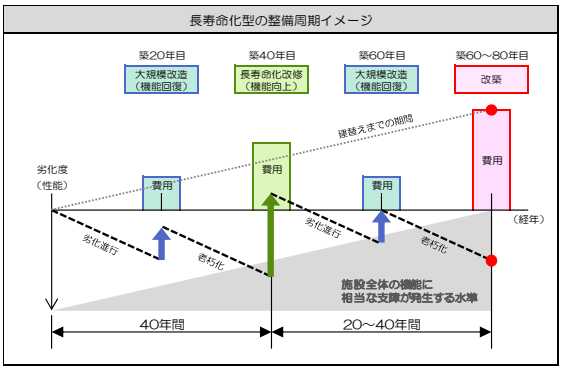
建物の経過年数や構造躯体の健全性・劣化状況等を踏まえながら、予算制約を定め効率的な中長期の整備計画の検討を行い、予算の平準化やトータルコストの縮減に努めます。

４．安全性・機能性等の確保

構造躯体の評価の結果、改築せざるを得ない建物があった場合は、劣化状況等を踏まえ、改築までの期間に応急的な保全を行い、当面の安全性・機能性等の確保を行っていきます。

目標使用年数、改修周期の設定

目標使用年数は、上位計画である「西条市公共施設等総合管理計画（令和５年３月改定）」や、日本建築学会「建築工事標準仕様書・同解説（2009 年 ２月改訂）」を総合的に勘案し、構造別に以下のように設定します。



整備方針	構造	耐用年数の型	目標使用年数	整備周期	
				大規模改造	長寿命化改修
従来型	RC造、SRC造	Y40	40 年	築 20 年	-
	S造、木造				
長寿命化型	RC造、SRC造	Y80	80 年	築 20 年／60 年	築 40 年
	S造、木造	Y60	60 年	築 20 年	築 40 年

目標使用年数の型が『長寿命化』かつ『構造がその他（S造、SRC造等）』である場合は、改修の際には、構造躯体の状況確認等を実施するものとし、調査結果に基づき延命化を図っていくものとします。

長寿命化の実施計画

本計画の策定にあたり実施した各種判定項目の結果に基づき、建築年数等や過去の改修等の実施状況を踏まえ一部、先行して施設整備を行っていることから、その内容を含んだ実施計画を策定しましたが、今後の本市の財政状況や、児童生徒数の減少等も踏まえ、概ね５年ごとに見直しを行います。

表　令和 10 年度までの施設整備実施計画

［整備予定数：20 棟］

施設名	建物名	2024（R6）	2025（R7）	2026（R8）	2027（R9）	2028（R10）
小松小学校	校舎	長寿命化				
神戸小学校	管理教室棟	設計	長寿命化	長寿命化		
玉津小学校	北校舎	設計	躯体健全化			
	普通教室棟	設計		躯体健全化		
楠河小学校	西校舎		躯体健全化			
氷見小学校	校舎		設計	躯体健全化		
徳田小学校	校舎		設計	躯体健全化		
多賀小学校	西校舎			躯体健全化		
吉岡小学校	屋内運動場				躯体健全化	
橘小学校	校舎			設計	躯体健全化	
禎瑞小学校	普通教室棟			設計	躯体健全化	
西条小学校	北校舎				躯体健全化	
飯岡小学校	南校舎				設計	躯体健全化
	渡り廊下				設計	
庄内小学校	管理教室棟				設計	躯体健全化
壬生川小学校	管理教室棟				設計	躯体健全化
西条北中学校	西校舎	設計	躯体健全化			
	技術室棟		設計	既存校舎に集約		
西条東中学校	北校舎	設計	躯体健全化			
西条西中学校	北校舎		設計	躯体健全化		

今後も長期的な見通しや定期的な点検結果に基づく劣化状況を踏まえつつ、本市において執行可能な予算制約の範囲で、効率的・効果的な整備計画の検討を行っていきます。